

実施報告書

1 事業概要

事業名：鬼塚巖氏フィルム作品デジタル化と展示公開

実施内容①：鬼塚巖氏フィルム作品デジタル化

6月に高性能フィルム用スキャナを購入し、ネガ整理とデジタル化を行った。2022年1月までに約250本のネガ整理と一部のデジタル化を終えた。また、8ミリフィルムは約50本程度を専門の会社に委託しデジタル変換を行った。デジタル化した未発表作品のうち「スナガニのダンス」(カラー・音声有・2分27秒)と「水俣の四季」(カラー・音声有・8分49秒)はYOUTUBEで期間限定公開を行った。

実施内容②：「鬼塚巖記録展」の開催

デジタル化を行った写真・アルバム、鬼塚氏所有のカメラなど関連物品を中心に約60点の展示を行った。

日程：

2022年2月4日-2月15日

来場者：

103名

会場：

水俣病歴史考証館、水俣病センター相思社集会棟

入場料：

無料

展示内容：

- ・水俣風土ところどころ - 1950-1960 初頭の水俣
- ・チッソの中に水俣があり、水俣の中にチッソがある - 水俣の風景、定点観測の工場より
- ・「私は裏山である」 - チッソを見つめた裏山と鬼塚巖
- ・百間 ドベを撮るころころ - アルバム「百間記録」より
- ・「たうちがね」 - シオマネキに迫ったネガ、イラスト、フィルム
- ・水俣病 - 水俣病記録写真
- ・安貧闘争 - ビケ小屋日誌、団結運動会

- ・実物 ーカメラ、アルバム「侍部落と櫛」、ノート

コロナ対策：

会場は定期的な換気を行い、見学者にはマスクの着用と手指消毒を呼び掛け、連絡先を把握するための来場者簿に記入をお願いした。

展示関連企画：8ミリフィルム上映会

「鬼塚巖記録展」関連イベントとしてデジタル化を行った8ミリフィルムの上映会を2月7日(月)14:00～と22日(火)19:00～オンライン(ZOOMを利用)で実施した。2回の上映会には合計約70名の参加者があった。

・第1回 オンライン上映会：

上映作品「第43回チッソ株主総会 同行記録」(1971年、モノクロ・無音声)
ゲスト 山下善寛(聞き手 坂本一途)

・第2回 オンライン上映会：

上映作品「東京勸進」(1972年、カラー・無音声)
ゲスト 近沢一充、遠藤寿子(聞き手 永野三智)

事業名：鬼塚巖氏フィルム作品デジタル化と展示公開
水俣病センター相思社



2 収支報告

収入の部

(単位：円)

項 目	金 額	内 訳
助成金	400,000	熊本放送文化振興財団 10 万円、ふくおかフィナンシャルグループ文化芸術財団 ふるさと振興基金 30 万円
自己資金	363,466	
合 計	763,466	

支出の部

項 目	金 額	内 訳
展示制作関係費	9,960	展示補助物品購入 3960 円、印刷代 6,000 円
広告・通信費	5,046	チラシ印刷代 2,346 円/ZOOM 有料版 2700 円
フィルムデジタル変換費(外部委託)	562,100	8 ミリフィルム、音声テープなど合計 60 本
渉外費	54,240	トーク講師謝礼、展示物作成補助謝礼、お茶
機材購入費	72,120	フィルムスキャナ 57150 円、スキャナ用ホルダ 13180 円、附属部品 1790 円
光熱費	60,000	5000 円×12 日間
合 計	763, 466	

事業名：鬼塚巖氏フィルム作品デジタル化と展示公開
水俣病センター相思社

命を残すのか 記録
命を知らぬのか 生命

鬼塚巖 記録展

水俣病センター相思社 / 水俣病歴史考証館

入場無料 (常設展有料 水俣周辺地域住民は無料)

2022. **2.4** (金) - **2.15** (火)
9:00 - 17:00

関連企画 8ミリフィルム上映会

鬼塚巖は、8ミリフィルムの映像作品も多く残しました。2.7(日)と2.22(水)
今年度デジタル化を行い作品が観られました。
鬼塚と当時を共にした人をゲストに、作品を鑑賞したいと思います。*オンライン鑑賞予定
詳細はウェブサイトをご覧ください。

水俣市待地区出身の鬼塚巖(1928-1998)は、一家の父として、テッソ工員として、地域と自然を愛する住民として、様々な記録を残しました。変わりゆく水俣の町と職場の工場、変わりぬ地域の春夏秋冬、浜辺のカニや小さい生き物たち。そして労働争議と水俣病へ…なぜ鬼塚はそれらを記録し、編集し、残したのでしょうか。写真、映像、スクラップブック、ノート、肉筆から、鬼塚巖の足跡と記録をたどり、記録の持つ可能性を探ります。

鬼塚が撮影した懐かしい水俣の風景の写真も展示します。ぜひご来場ください。

一般財団法人水俣病センター相思社 / 水俣病歴史考証館
Soshisha, the Supporting Center for Minamata Disease / Minamata Disease Museum

〒867-0034 熊本県水俣市鏡3 4
電話：0966-63-5800 FAX：0966-63-5808
Email：Info@soshisha.org
http://www.soshisha.org/jp/



本展覧会は、水俣病センター相思社主催の社会福祉活動の一環として開催されています。水俣病センター相思社は、水俣病の被害者とその家族の支援を目的として設立されています。



4 展示風景写真



5 関連記事

（熊本新聞記者団）

チツツ勤務 撮った水俣

水俣病の原因企業チツツに勤めながら、水俣病被害者家族の日常、地元の様子を写真や映像で残した鬼塚巖さん（1918年～80歳没）の「記録展」が1日、水俣市の水俣病センター相思社で始まった。写真やフィルムは二個人としての記録と目を通じ、何が感じ取ってほしいと呼び掛けている。15日まで。（白石一弘）

鬼塚巖さん「記録展」

1918年、四市の農家に生まれ、14歳でチツツ水俣工場に入社した鬼塚巖さん。工場として定年60歳までを強制された。写真やフィルムが好きで、69年に厚生労働省「安全衛生推進員」を資格取得し、安全衛生課に勤務。厚生労働省を退職し、市を三分し労働者の権利を記録した。水俣病被害者支援した。水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしは、小さな生活者としてのまなざしを向けられた。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。

「百問記録」

被害者ら日常や湾埋め立て 15日まで

「水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。」

「百問記録」

「水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。」

↑ 2022.02.06 読売新聞

令和4年(2022年)2月10日 木曜日 熊本 本日 日新新聞

水俣の暮らし、闘争…克明に

元チツツ労組 故鬼塚巖さん撮影

水俣病の原因企業チツツに勤めながら、水俣病被害者家族の日常、地元の様子を写真や映像で残した鬼塚巖さん（1918年～80歳没）の「記録展」が1日、水俣市の水俣病センター相思社で始まった。写真やフィルムは二個人としての記録と目を通じ、何が感じ取ってほしいと呼び掛けている。15日まで。（白石一弘）

相思社で記録展

「百問記録」

「水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。」

「百問記録」

「水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。水俣病被害者支援の記録展として活動した。そのまなざしを多くの人に伝えたい。多岐にわたるテーマを扱った。」

↑ 2022.02.10 熊本日日新聞